

能と狂言を鑑賞する会



野村 萬斎



友枝 昭世
【人間国宝】



粟谷 明生



粟谷 能夫

蠟燭能 葵上
狂言 昆布売
仕舞 松風
半能 敦盛

ろうそく 能
ROUSOKU NOH



2014.

11/15 土

津山文化センター 開場 13:00 開演 13:30

S指定席7,000円/A指定席6,000円/B指定席5,000円/学生席2,000円

チケット発売開始 7月11日(金)

チケット取り扱い/津山文化センター・ベルフォーレ津山
お問い合わせ先/0868-22-1110 (ココティエ)
090-4693-9876 (難波) 090-8067-5678 (菅野)

【主催】津山喜多会/津山蠟燭能実行委員会/公益財団法人十四世六平太記念財団 【共催】津山市教育委員会/(公財)津山文化振興財団
【後援】津山市/津山市文化連盟/山陽新聞社/RSK山陽放送/津山朝日新聞社/テレビ津山

番組組

解説 金子敬一郎

シテ 粟谷 明生

敦盛

ワキ 森 常好

大鼓 三王 清
小鼓 横山 幸彦 笛 出雲 敏弘

後見 友枝 昭世
内田 安信

地謡 佐藤 充雄 金子敬一郎
栗谷 内田 成信 長島 茂
粟谷 浩之 出雲 友枝 昭世
狩野 了一 康雅

休憩 二十分

仕舞 松風

友枝 昭世

地謡 粟谷 浩之
金子敬一郎
狩野 了一
内田 成信

狂言 昆布売

大名 野村 萬斎

昆布売 中村 修一
後見 岡 聡史

休憩 二十分

蠟燭 能

シテ 連 佐藤 陽

葵 上

ワキ 森 常好
アイ 岡 聡史

大鼓 三王 清 太鼓 梶谷 義男
小鼓 横山 幸彦 笛 出雲 敏弘

後見 内田 安信
狩野 了一

地謡 粟谷 充雄 長島 茂
内田 成信 出雲 友枝 昭世
粟谷 浩之 友枝 昭世
粟谷 明生

演目紹介

■ 敦盛

僧となった熊谷直実が、一ノ谷で手にかけた敦盛の菩提を申うために再び須磨を訪れると、草刈りの若者たちがやってくる。若者の一人は実は敦盛の霊の仮の姿で、毎日毎日あなたが申う相手は私だと言って姿を消します(中人)。熊谷が夜もすがら念仏を唱えて申うっていると、武将姿の敦盛の霊が現れ、平家都落ちの感慨を物語り、思ひ出の舞を舞い、戦死前後の有様を述べなしますが、直実の申いを喜び、恨みを棄てて去って行きます。

■ 松風

諸国一見の僧が、須磨の浦で在原業平の兄にあたる行平中納言の寵愛を受けた松風、村雨姉妹の霊を申います。

■ 昆布売

供を連れずに出かけた大名(萬斎)。たまたま通りかかった若狭の小浜の召し(献上)の昆布を売る男を脅し、太刀を持たせて供とする。始めはしぶしぶ従っていた昆布売だが、大名が油断した隙に太刀を抜き、逆に脅された大名が昆布を売ることになる。物など売ったことのない大名は、昆布売りにさまざまな注文をつけられ…。



■ 葵 上

左大臣の息女で、光源氏の北の方である葵上が物の怪に悩まされ寝込んでいたので、貴僧高僧を召して加持祈禱を行ったり、様々な医療をほどこしてみますが、効きめがありません。そこで朱雀院に仕える廷臣が、梓弓によって亡霊を呼び寄せ、呪法の手である照日の巫女に命じて、怨霊の正体を占わせます。梓弓の音にひかれて、源氏の愛人であった六条御息所の生霊が破れ車に乗って現れます。源氏の愛を失った恨みを綿々と述べ、葵上の枕元に立ち寄り、責めさいなみ、幽界へ連れ去ろうとします(中人)。臣下はただならぬ様子に、下人と呼ばれ、横川の小型という行者の元へ走らせま。急ぎ駆けつけた行者が、早速に祈禱を始めると、六条御息所の怨霊が、鬼女の姿で再び現れ、行者を追い返そうとして激しく争いますが、その法力には敵し得ず、ついに祈り伏せられ、悪鬼さながらの怨霊も心を和らげて成仏します。

半能 ?

能楽で、前後二場ある曲の前場をほとんど省略し、後場を主として演ずることです。

仕舞 ?

一曲の見せ場である独立した一部分をシテ一人が紋服・袴の姿で地謡だけで舞うことです。

狂言 ?

猿楽の滑稽・卑俗な部分を劇化した芸能。独立して演じられる本狂言と能の曲中に行われる間(あい)狂言とに大別されます。

蠟燭(ろうそく) 能 ?

屋外で行われる新能は、能楽堂は敷居が高いと感じる人びとにも、気軽なイベント感覚で参加できるからか、大変人気があります。明るい室内照明のもとで、絢をなす装束や仕舞や所作の細部を観ることもよい能の楽しみですが、揺らぐ灯りの中での観能もまた格別です。見えない部分に何かが見える感覚が生まれます。

新能に連なる舞台づくりで、近年、屋内の能舞台で「蠟燭(ろうそく)能」が採用されるようになってきました。かつてろうそくが屋内の照明だった時代、多くの能舞台では、このわずかな灯りをたよりに演じられてきました。昔日の面影が、幽玄を一層濃く感じさせるような効果をもたらす、新しい演出手段としてよみがえったのです。

舞台の周囲にいくつも置かれたろうそくの、揺らぐ灯りの中で目を凝らすと、金糸銀糸の輝きや能面の表情も、際立って目に留まるもの。演者の動きも闇の中に浮かぶかのような印象を与えます。「何かを減らす」ことで、本来の魅力が濃く現れることの一例です。

